

広報



地域のでおいしい餅を

伏熊電化組合による餅つき大会が、12月16日に伏熊公民館で開かれました。伏熊地区では耕作放棄地利活用の取り組みの一つとしてもち米を栽培し、収穫したもち米を使って今回初めての餅つきをおこないました。公民館前には地区民の皆さんが大勢集まり、子どもたちも餅つきを体験。できた餅をみんなでおいしく味わって、1年の無病息災を祈りました。



平成31年

1

No.695

謹賀新年

大江町長 渡邊兵吾

新しい年を迎えました。旧年中に皆様からいただきましたご厚情とご指導、本当にありがとうございます。今年もどうぞよろしくご指導をお願い申し上げます。

狩猟から農耕、ものづくりから情報社会へと大きく時代が変遷し、人間は、手と足、眼と耳で動いた時代から、一気に我が身と情報を空に飛ばして、必要とするものを短時間で手元・足元に寄せることが可能になりました。世界から届く日々の多事多難の情報も、その一例といえるかもしれません。

世界を論じて日本を考えるか、日本を考えて大江町を思うか、曖昧模糊とした「国際化」の意味がどういうものであるかの謎解きを個々人に求められている、そんな風が吹く時代であります。自国第一主義台頭の波に「個々の便益と全体の利益の共存共栄」が乗るものかどうか、大江町の明るい未来の礎石は……。

2年前は12月12日前後の大雪、昨年は12月9日の大雪、年々歳々花相似たりとは申せ、「雪がこんこんと降る、人間はその下で暮らしているのです」と詩につづった少年の感性は本物、今も昔も「冬の雪」への想いは同じように感じられます。「住んで良かった大江町」と、日々の生活の中で実感できるのが、私たちの願う大江町であると思いたい。あせらず、しっかりと、こつこつと。

町立にじいろ保育園が開園しました。社会福祉法人峻嶺会に運営をお願いしておりますが、運動会での園児の大きく伸びやかな動きに、パパとママ、おじいちゃんとおばあちゃん、関係各位の眼には大江町の未来の光が輝いていました。

中学生の生徒諸君が「田植え」に参加し、米作りの一部の作業とはいえ、「自給自足・食の安全安心・自分たちが作ったお米だよ」を経験しました。給食費の無料化は「生徒の

ごあいさつ



米づくり参加」と関係各位の協力により実現したものです。

主要地方道大江西川線の貫見・柳川間で3番目の橋が完成し、4つ目の橋の橋脚もできあがって、上流に向かって右側から左側へと「川の流れを移し替える」最大規模の工事が始まりました。完成すれば、曲がりくねった危険で狭隘な道路を通ることがなくなり、ますます安全になります。藤田地区から堂屋敷地区への道路、生活関連の町内の道路も工事が順調に進んでいます。工業団地には大きな工場が形として見えてきました。

観光誘客ライン「最上川舟運の重要な文化的景観」―「まちなか交流館 A T E R A」―「小倉交流館」―「山里交流館やまさあーべ」―「奥おえ柳川温泉」―「神通峡」―「朝日連峰古寺登山口」を目指し、4年間の難工事を要して復旧を急いだ神通峡の遊歩道、4月にまたも大規模な土砂崩れの発生が確認され、修復にさらに4年を要することになってしまいました。無念の極みであります。先人が刻んできた足跡を消すことのないよう、希望を捨てず、観光

誘客ラインの実現に向かって歩みを進めてまいります。

新しい年度には、観光誘客ラインの充実、住宅団地の造成、健康医療体制のステップアップ、教育環境の整備、商業・工業・農業のサポート、社会インフラの整備などを進めてまいります。持続可能性を熟慮し、「世界全体が幸せにならないと、個々人の幸せはあり得ない」の文言を座右にして、町民各位をはじめとする関係各位に、町政に対するこれまでのご指導とご協力に感謝と御礼を申し上げるとともに、引き続き変わらぬいご指導を仰ぎながら、「同じ船に乗っている乗客は、寄港する港は一方所だけ、一力所ずつだ」との思いを共有し、「共生社会」の実現に向かっていきたいものであります。

町民各位のご健勝とご活躍とご参加を、そして何よりもご健康で過ごしいただくことを念じ申し上げます。

明日来る 喜びあれば 今日の日

暑さ寒さも 心地よき風

平成31年 新春の



魅カ、 ハツカ、 シン

町の情報発信の今と未来

年が明け、平成31年を迎えました。「平成」の元号の始まりは、今からちょうど30年前。その平成元年は、大江町の誕生から30年目の節目の年でもありました。そして平成最後の年であるとともに、新しい元号の始まりの年でもある今年、本町は町制施行60周年を迎えます。今後もっと多くの皆さんに本町の魅力を知っていただき、未来にわたってさらに歩みを重ねていくためには——節目の年、最初の特集となる今月号では、町の「情報発信」のあり方に目を向けてみます。

多様化する通信の手段

今年もまた、無事に新しい年を迎えることができた喜び。親しい人たちに、皆さんはどのような手段で伝えていくでしょうか。お正月といえば年賀状を送る文化が根付いていますが、それに加えて今では色々な伝達手段が存在します。「良いお年を」「あけましておめでとう」——大晦日から元日にかけて、日本中を飛び交う膨大な数の祝福の言葉。その伝達経路の様相は、毎年少しずつ変化を遂げています。

かつて携帯電話と電子メールの普及とともに、「新年のあいさつ」を伝える方法の一つとして広がりを見せたのが、通称「あけおめメール」。スマートフォンとの普及率が急激に上昇し、LINEやツイッター、フェイスブックなどの「ソーシャル・ネットワーク」や「サービス（SNS）」が日常のコミュニケーションツールとして若者を中心に浸透している今、

皆さんの「あけおめ」を届ける役割も、そのSNSに徐々に引き継がれようとしているのかもしれない。同じように、町の魅力を伝える情報発信のあり方も時代の変化とともに見直されつつあるといえます。

スマホ時代の情報発信

現代の情報発信手段と聞いて多くの方がまず連想するのが、インターネットではないでしょうか。本町の公式ホームページが初めて公開されたのは、平成8年9月のこと。一般家庭へのパソコンの普及が進み始めた時期で、このころからインターネットの利用者も急激に増加してきました。現在では、観光スポットやイベント開催などの情報はもちろん、窓口での手続きや各種補助事業の内容、公営施設の利用方法など、公共サービスについても県や市町村のホームページから情報を得ることが一般的になっています。

大江町

大江町のホームページへようこそ



▲新しい町公式ホームページのトップ画面



▲公式ホームページのリニューアル作業を担当した、地域おこし協力隊の坂口祥太さん

◀スマートフォンから閲覧した行政情報トップページ。左下の青いボタンからメニューを呼び出すことができます

利用者視点の情報整理

目に優しく親しみやすい、パステルカラーを基調とした町の新ホームページ。大きな特徴の一つとして、利用者の目を引き付けるように大き

しかし現在、多くの人がより便利なモバイル通信機器であるスマートフォンでインターネットを閲覧するようになり、従来の「インターネット」から「モバイルインターネット」という図式は崩れつつあります。本町のホームページは開設以来何度かのリニューアルを経て公開を続けてきましたが、こうした近年の潮流の変化に対応していくため、これまでにない刷新をおこなう必要が生じてきました。

な画像を使用していることが挙げられます。トップページの背景には、町の四季折々の魅力を伝える写真を大きく表示。中央部に並んだ「行政情報」「観光情報（町観光物産協会ホームページ）」「イベント情報」の3つのメニューを選ぶと、目的に合った分野にすぐに移動することができます。また、行政情報のトップページ上部には、町の観光スポットやその時々々の町の風景を撮影した写真などがスライド式に表示されます。

内容の面では、これまで主に役場の担当部署ごとに分けられていたホームページ内の情報を、目的別に整理し直したことも大きな変更点といえます。これに加えて、利用する方が多いと思われる情報へのリンクを1つにまとめたページも作成しています。例えば、「各種補助制度」のページには子育てや教育、住宅購入などのライフイベントに関わるものから、起業や農業経営に関するもの、まちづくりを推進する活動など、多様な補助事業についての情報が一つにまとめられています。こうした情報の整理により、利用する方が必要とする情報をこれまで以上に容易に得られるようにしています。

三度目の頂点。



ふるさとCM快挙達成

インターネットが普及する以前から存在し、日常的に数多くの人が目にしていく媒体もあります。それは、テレビコマーシャル——いわゆるCMです。

15秒から30秒という短い時間の中に情報を凝縮し、製品や企業などを広くPRするテレビコマーシャル。ずいぶん前に放送されていたCMでも、強く印象に残っているものがあるという方も多いことでしょう。こ

のCMの効果を地域のPRに生かそうと、市町村がオリジナルのCMを制作する「ご当地CM」の企画も、全国各地で見られるようになりました。山形県はその草分け的存在であり、動画・CMによるふるさとPRの先駆者ともいえます。

株式会社山形テレビが主催し、県と県市長会、県町村会の共催により平成11年から毎年実施されている「山形ふるさとCM大賞」は、ご当地CM番組の老舗であり、県内全市町村のふるさと自慢のCMが競演することで知られています。この「山形ふるさとCM大賞」において、本町が出品したCMは過去2回、最高賞である「大賞」を受賞。受賞したCMをご覧になった方も多いと思いますが、本町の知名度向上に大きな役割を果たしました。

そして今年度、19回目を迎えた「山形ふるさとCM大賞」で、本町は3度目の大賞に輝きました。3回の大賞受賞は、他のどの市町村も成し遂げていない快挙です。

わが町CM全国へ拡散

第1回目の「山形ふるさとCM大賞」以来、本町ではCM作成のため



第19回「山形ふるさとCM大賞」 大賞受賞

作品名 「ひだりじゃない」

東北他県の大賞作品と競演します！

東北各県の「ふるさとCM大賞」の最優秀作品が一堂に集まる番組「東北ふるさとCMフェスティバル2019」（KHB東日本放送制作）に、本町の作品も登場します。

◆放送日／平成31年2月16日（土）
（予定）

◆放送局／YTS山形テレビ

◆内容／受賞市町村の魅力紹介、CM制作のこぼれ話など

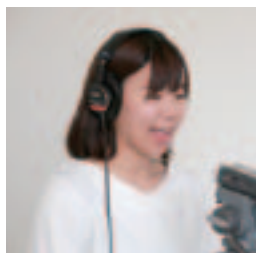
大賞受賞作品上映中！

このたび大賞を受賞したCM「ひだりじゃない」を、役場1階（出納室横）およびテルメ柏陵健康温泉館（受付横）で上映しています。なお、第5回大賞作品「ぼくの絵日記」、第7回大賞作品「コロコロおおえ」も併せて上映していますので、ぜひご覧ください。

「山形ふるさとCM大賞」大江町受賞歴

実施回	年度	作品名	賞
第2回	平成13年度	テルメ柏陵ダンシングじいちゃんズ	演技賞
第4回	平成15年度	Let's Go おおえ	音楽賞
第5回	平成16年度	ぼくの絵日記	大賞
第7回	平成18年度	コロコロおおえ	大賞
第12回	平成23年度	うまいなっす♪	音楽賞
第15回	平成26年度	思い出に帰ろう	映像賞
第16回	平成27年度	チキントレ de ウマッスル	演技賞
第17回	平成28年度	チキンと伝えたい	ユーモア賞
第19回	平成30年度	ひだりじゃない	大賞

本町としては12年ぶり、そして番組史上初の3度目の大賞獲得となった今回の作品。過去の受賞作品も、未だ根強い人気があるようです。



▲CM主題歌を歌った
税務町民課・奥平有香さん



▲11月6日、山形テルサアプローズで開かれた公開審査会には、本町のスタッフと出演者が出席。受賞後にステージで記念撮影をおこないました

に毎年町職員による制作チームを組織。企画立案から撮影、編集まで、CM制作のほとんどの部分をスタッフの手でおこなっています。これに加えて、町民の方や各種団体などから出演や撮影場所の提供などにおけるご協力をいただくことで、町のオリジナルCMが完成します。

これまで本町では、町内の観光名所や特産品などにスポットを当てたCMを作ってきました。今回大賞を受賞したCMのテーマは、これまで取り上げてこなかった要素である「地名」です。

難読駅名の一つとしても知られている「左沢駅」の読み方に着目し、オリジナルの歌に合わせてサッカー少年や高校生、ご当地ヒーローなどが登場するコミカルな作品に仕上がりました。

今回大賞を受賞した本町の作品は、テレビコマercialとして今年1年の間に365本放送される予定です。また、東北地方の他の5県に加え、長崎県、大分県、愛媛県、長野県、石川県の合わせて10県で放送されることも予定されています。今回の受賞を機に、わが町の知名度が県外においてもますます高まっていくことが期待できます。

多方面からPR戦略を

幅広い年代が目にするという点で、テレビ番組やコマercialは現在も絶大なPR効果を持っています。新聞、情報誌、フリーペーパーなどのいわゆる「紙媒体」もまた、変わらず広い世代に受け入れられている情報媒体であるといえます。こうしたメディアを通じた情報発信は、従来からおこなわれている町のPRの方法であり、今後とも有効に活用して魅力発信につなげていくことが大切になります。

将来を担う若い世代へ向けたPRのために、コミュニケーション手段の主役になりつつあるSNSの運用方法も重要になってきます。新しくなった本町のホームページは、SNSでの情報拡散も視野に入れた構成となっており、効果的なPRのためにもどのように利用していくかが、今後調査・研究していくべき課題となります。

もちろん、この「広報おおえ」も町の情報発信の手段の一つ。今後とも多くの皆さんに楽しく読んでいただけるよう、さまざまな工夫を凝らしながら誌面の一層の充実を図っていきます。

1 ■さらに愛されるお酒を目指して ～地酒「大江錦」誕生30周年を祝う会～

本町の誇る地酒「大江錦」が生まれてから今年で30年目の節目を迎えるのを記念し、「地酒『大江錦』誕生30周年を祝う会」が12月15日に中央公民館で開催されました。「大江錦」は大江町観光協会（現在の町観光物産協会）と大江町地酒推進会が主体となって開発に取り組み、地酒に適した酒米や水の研究、千代寿虎屋株式会社からの醸造の協力により、平成元年に産声をあげました。

祝う会には町観光物産協会や町地酒推進会、大江酒米研究会、町酒販会などの関係者を中心に約40人が出席。観光物産協会の佐藤進会長（8区）は「『大江錦』が30年続いたのは、価格、町内限定販売、官民一体での取り組みの3つの要素があったからだと思います。今後も100周年を目指してさらに盛り上げていきたいです」とあいさつしました。

また、「大江錦」誕生30周年記念誌も刊行され、記念誌を執筆した石川博資さん（葛沢）は「おいしい米と水、そして作る人があって初めてできたのが『大江錦』です。そうした経緯を何とか残したいと思ひ、まとめたのがこの記念誌です」と話しました。

その後、「大江錦」の酒樽での鏡開きなどをおこない、30周年記念酒で節目の年を祝いました。



▲地酒「大江錦」誕生30周年を祝しての鏡開き



▲30周年記念誌を著した石川博資さん

◀「大江錦」誕生の経緯と、30年間の歩みを記した記念誌

平成30年第4回大江町議会定例会が、12月4日から7日までの会期で開かれました。

今定例会では、各会計の補正予算や条例の制定・改正などについて審議され、原案どおり可決・承認されました。その内容の一部をご紹介します。

行政報告

職員採用試験について
平成31年4月採用予定の職員については、9月16日に1次試験、10月21日に2次試験をおこない、最終的

議会 第4回定例会 town council



に上級行政2人と初級行政1人、保健師1人の計4人を採用することに決定しました。

条例制定・改正

大江町農業共同作業所条例の制定
本町の基幹産業である農業において、次世代を担う意欲的な農業者の農作業環境の向上を図ることを目的に、旧ひばり保育園を改修して大江町農業協同作業所を設置運営するための条例を制定することについて、可決されました。

補正予算

大江町医療給付に関する条例の改正
山形県医療給付事業補助金交付規程の一部改正に伴い、大江町医療給付に関する条例の一部を改正する条例を制定することについて、可決されました。改正内容は、今年度から指定都市における市町村民税所得割額の税率が変更されたことにより、医療給付の所得制限の判定に差が出ることを防ぐために改めるものです。

平成30年度一般会計補正予算（第4号）が原案通り可決され、歳入歳出にそれぞれ3億670万円を追加し、予算総額は5億2億950万円となりました。



2 ■あわてず優しく声かけを ～認知症見守り声かけ訓練～

認知症などで道に迷っているとみられる高齢者への対応方法を学ぶ「認知症見守り声かけ訓練」が、11月29日に中央公民館でおこなわれました。この訓練は、高齢者が安心できる地域づくりのため、関係団体とともに町が今年初めて実施したものです。

訓練には区長や民生児童委員、各種団体、一般町民など約70人が参加。参加者はグループに分かれ、高齢者役の担当者に座るように優しく促したりしながら、本人の状況や情報を確認し、家族などに連絡するまでの流れを体験しました。



様々な分野で活躍され、表彰された町民の方々を紹介します

平成30年度全国優良経営体表彰 担い手づくり部門 農林水産大臣賞

農林水産省・全国担い手育成総合支援協議会共催の平成30年度全国優良経営体表彰担い手づくり部門で、渡辺誠一さんが最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。

渡辺さんはスモモをはじめモモやリンゴなどの果樹、水稲、シイタケを栽培。スモモについては14以上の新品種系統を育成しブランド化を図ることで他の産地との差別化を実現しました。

また、渡辺さんが中心となり、農家自らが県内外から新規就農希望者を受け入れて組織的に育成する「大江町就農研修生受入協議会（OSINの会）」を平成25年に設立。さらに、OSINの会と町が連携して新規就農者用の住居や共同利用機械・施設の整備を進めたこともあり、その間、研修生12名が新規就農者として独立。他市町村でも新規就農者の受入協議会が発足するなど、担い手育成・定着の手法のモデルとなっています。



渡辺 誠一さん（塩野平）

平成30年度山形県ベストアグリ賞

地域の環境を生かし優れた経営をおこなっている農業者などを表彰する平成30年度山形県ベストアグリ賞に、大江西瓜部会（部会長・清水利夫さん・諏訪原）が選ばれました。

大江西瓜部会は平成7年に発足し、13人のスイカ栽培農家が所属しています。部会独自の密閉栽培方法によってつる管理の労力を大幅に軽減するなど、数々の工夫を重ねた栽培を実践。また、土づくりや環境への配慮を組み入れた栽培マニュアルを作成し、新たな栽培者が早期に技術を習得できるようにしたことも評価されました。



大江西瓜部会
部会長 清水
利夫さん（諏訪原）



11/19 ご近所みんなで百歳体操

月が丘地区では、住民の皆さんの自主活動として今年4月から毎週月曜日に「いきいき百歳体操」がおこなわれています。この体操は、DVDを見ながらおこなう簡単な介護予防体操で、高齢者の「通いの場」づくりのきっかけとしても広く活用されています。

月が丘公民館で実施されている体操には、毎回十数名の皆さんが自主的に参加しています。参加者の一人は「家ではなかなかできない運動も、こうしてみんなで集まれば続けられるので、良いことだと思います」と話していました。



11/30 文化の違いにびっくり！

大江ロータリークラブの交換留学生として本町を訪れているブラジル出身のナオミ・ヒロセさんが、11月30日に左沢小学校で一日体験入学をしました。ナオミさんは現在左沢高校2年生として学校生活を送りながらさまざまな活動に参加しており、この日は左沢小学校の各学年の児童たちと一緒に工作や運動などをして交流しました。

5校時目には、5・6年生の児童たちにブラジルの地理や文化などについて解説。ナオミさんの母校の様子が写真で紹介されると、日本との違いに子どもたちは驚きの声をあげていました。



11/23 国と年齢を越えて交流

楽しみながら英語力を養う特別授業「インターナショナル・デイ」が、11月23日に左沢高校でおこなわれました。この授業は近隣の高校と提携するキャンパス制活動の一つとして実施されたもので、県内各地から9人の外国語指導助手（ALT）が集まり、左沢高校と寒河江工業高校の生徒20人のほか、町内の小学生6人も参加しました。

参加者は、英語のヒントをもとに絵の内容を当てるゲームや、英語で会話しながらの料理づくりなどに挑戦。ALTや他の参加者と交流しながら、英会話を楽しく学んでいました。



12/2 ママさんチームの結束光る

大江町ママさんバレーボール大会が、12月2日に体育センターで開催されました。ちょうど50回目を迎える今大会には、各地域でバレーボールを楽しんでいる7チーム77人がエントリー。9人制ルールで2つのグループに分かれてのリーグ方式で勝敗を競いました。

リーグ戦ではどの試合も互いのチームワークを生かした好ゲームが展開され、応援も白熱。各グループで1位となった本郷東とレディースF.U.J.I.T.Aの決勝戦は、フルセットの熱戦の末、本郷東が昨年に続いて栄冠を手に入れました。



12/2 懐かしのメロディで心をひとつに

町社会福祉協議会による「みんなの茶の間普及啓発フェア」が、12月2日にふれあい会館で開催されました。このフェアは、高齢者が集まって楽しむ居場所づくりを進めるために企画され、第1部では支え合う仕組み作りアドバイザーの河田珪子さん（新潟市）による講演がおこなわれました。

第2部では、かつて流行した「歌声喫茶」の元祖・新宿うたごえ喫茶「ともしび」のメンバーが、往年の名曲を演奏。来場した皆さんも思い出の曲の数々を一緒に歌い、会場内には昔を偲ばせるメロディが響きわたっていました。



12/9 みんなの個性でクリスマスを演出

町子ども会育成会連合会による「子ども会クリスマスパーティ」が12月9日に中央公民館で開催され、町内の小学生16人が参加しました。子どもたちは2つのグループに分かれ、2本のクリスマスツリーに色とりどりの飾りつけをおこない、エントランスと図書館内に設置しました。

その後、白川清江さん（伏熊）の指導でクリスマスケーキ作りに挑戦。子どもたちは形を整えるのに苦労しながらスポンジケーキに生クリームを塗り、ホイップとイチゴをあしらってオリジナルのケーキを完成させていました。



12/9 狙いを定めて高得点ゲット！

大江町・西川町スポーツ少年団交流会が、12月9日に体育センターで開催されました。この交流会は、両町のスポーツ少年団で練習に励む子どもたちの交流を目的に、両町の会場で1年ごとに交互に開かれているもので、今回で3回目の実施となります。

この日は合わせて42人の子どもたちが参加し、吹き矢やフライングディスクなど4種目の競技にチャレンジ。普段とはひと味違った競技に、子どもたちはリラックスしながらも高得点を狙って何度も挑戦していました。



12/11 楽しく学ぶお金の知識

子どもたちの生きる力を育てる金融教育の取り組みを広く知っていただくこと、県金融広報委員会などの主催による「金融教育公開授業in山形」が、12月11日に左沢高校で実施されました。

公開授業の後、左沢高校の生徒と一般の方へ向けた講演会がふれあい会館で開催されました。講師は、お笑いコンビのパックンマックン。お金に対する日米の考え方の違いなどをコントを織り交ぜて解説し、会場を沸かせました。お二人は「将来お金の話になったとき、生徒たちが今日の話の思い出してくれたら嬉しいです」と話していました。

思い出の まいぞうひん My蔵品

No.39

皆さんの心に残る思い出の品を、それにまつわるエピソードとともにご紹介します。



▲清野さんが所有する珍しい箸の数々。さまざまな大きさや形、材質のものがあります

◀戦前から清野さんの家にあるという二膳の箸。左が朝鮮半島で売られていたと思われる箸、右が軍用機の風防から作ったという透明な箸です

40年ほど前、仕事で中国に行く機会があり、お土産として箸を購入しました。そのころから自分で買ったりお土産として頂いたりした箸をとっておいたのですが、最近整理してみたところ、色々面白いものがありました。

一本の木を彫って作った彫刻のような箸、小豆のさやのような形で中に豆の入った箸、インドネシアのお土産の箸……など、箸といってもさまざまなものがあります。

この中で一番珍しいのは、軍用機の風防を削って作ったという箸ではないでしょうか。太平洋戦争前に作られたものらしいのですが、なぜ我が家で保管していたのか、詳しい経緯は分かりません。おそらく、戦前に軍に所属していた私の先祖が何かの機会にもらったものではないかと思えます。

(5区 清野 太)

★皆さんの思い出の詰まった「宝物」はありませんか？ 懐かしい写真、長年愛用している道具、旅先で購入した記念の品など、なんでも結構です。総務課情報システム係 ☎(62) 2187まで、ぜひお知らせください。

戸籍のまど

11月21日～12月15日受付分

お誕生おめでとう

区名	氏名	性別	父母名
小漆川	山家 緋月 ^{ひづき}	女	和記・望
藤田	高橋 恵菜 ^{えま}	女	聖也・祥子
市の沢	清野 蒼 ^{あおい}	女	崇広・仁美
藤田	荒木 湊翔 ^{みなと}	男	俊貴・美咲

ご結婚おめでとう

区名・出身地名	氏名
9区 川西町	渡辺 裕貴 宇津木 彩香

ご冥福を祈ります

区名	氏名	年齢
9区	松田 ホマ	(87)
上北山	林 順一	(60)
9区	荒木 満雄	(86)
藤田	庄司 栄子	(76)
6区	柳澤 俊太郎	(89)
藤田	小松 繁太郎	(83)



あけましておめでとうございます。旧年中の出来事で一番印象深いことといえば、やはり「山形ふるさとCM大賞」での大賞受賞。CMをご覧になった町内外の方々から、想像を遥かに超える大きな反響を頂き、大変驚きました。ともあれ、多くの皆さんのご協力があったこそ勝ち得た大賞です。本当にありがとうございました。CMに限らず、PRするにはやっぱり中身が重要。今年も町の魅力発掘と発信のため、猪突猛進の勢いでがんばります！

(伊藤智治)